

東桂小学校における地域連携・地域交流

「東桂小スクールガードによる交通安全指導」

1. 目的と経緯

東桂地区児童生徒健全育成協議会では、活動の柱の一つに「児童生徒の安全を守る運動」があり、九つの自治体ごとにスクールガードが組織されている。民生委員や自治会長を中心に約111名のスクールガードが、登校時及び低学年の下校時刻にあわせ、交代で児童の見守りをを行っている。

2. 内容

○7月第1学期終業式の後の集団下校の際、本校校庭においてスクールガードの方との「発会式」が開かれた。活動は4月から始まっているが、改めて児童とスクールガードの方との顔合わせを実施した。顔合わせ後に地区ごと児童と一緒に集団下校をした。

7月スクールガード発会式



○児童生徒の登校時、通学路の交通量の多い場所などで、スクールガードによる交通安全等の見守りが行われる。学区内は国道139号線の横断歩道や中央自動車道の側道など、通勤時間帯に重なると危険な場所が多くあり、事件や事故の未然防止など、子どもたちの安全を確保する上で重要な活動となっている。

○交通安全、不審者対策など学校だけでは対応しきれない課題がある中、地域の方の目で子どもたちを見守っていただいていることは、とても大きな効果がある。

3. 小中連携と地域連携の成果と課題

東桂地区は、地域特有の文化があり、学校と地域とが強い絆で結ばれている。中でも「東桂地区児童生徒健全育成協議会」の活動は、自治会・民生委員・育成会・老人クラブ・主任児童委員・少年補導員・駐在所・小中学校の各団体で組織され、地域に深く根付いている。7月と12月には総会（今年度紙面開催）が開かれた。

子どもたちは地域社会の中でさまざまな経験をしながら、時には温かく時には厳しく見守られ、家庭や地域社会の一員としての自覚や役割、モラルを学んでいく。私たち地域に暮らす大人たちは、子どもたちの安全確保・健全育成を願い、お互いに連携を密にし、地域社会における教育力の強化に努めていかなければならない。多様化する社会の中で、学校を取り巻く環境は難しさを増している。今後も、地域住民とともに地域の中で子どもたちを育てていきたい。